

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770402469	
法人名	特定非営利活動法人 厚斯会	
事業所名	グループホーム フェアリー・1	
所在地	福島県いわき市植田町中央1丁目12-8	
自己評価作成日	平成25年1月25日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成25年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所と職員、職員同士のコミュニケーション・連携は自慢できるほどであり、その連携の良さで利用者様に対してのチームケアがとれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な環境の中で、日常の生活を大切に安心して安全に、暮らせるよう日々のケアに取り組んでいる。
管理者と職員は、いつでも自由に話し合える雰囲気が出ていて、出された提案・意見を積極的にとりいれており、職員同士の連携もできている。
重度化・終末期については真剣に考え、職員のケアも考慮し、家族や医療機関と協力し取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>玄関・廊下・事務所等へ掲示し、誰でもいつでも見られるようにしている。利用者様に対しての思いや支援は、自然と出ていると思う。</p>	<p>地域の一人としての生活の場となるよう、職員全員が理念を共有している。日常的に、職員同士が互いに意識し、理念に基づいたケアにつとめている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>二校の中学生 福祉体験を兼ねて、地域・子供達との交流をしている。また、近隣とのかかわりとしては、学校帰りの子供達の交流の場として利用者様と接することがある。</p>	<p>市内の中学校の福祉体験を受け入れている。地域の子供達が、学校帰りに気楽に立ち寄るなど良い関係が築かれている。子供会や商店会の行事に参加し、世代間の交流も行っている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>講習会・説明会は設けてないが、近隣の方には会話を通し疑問点がある場合には説明をしている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>内々での会議や 個々の家族との話し合いはあるが、多人数・いろいろな立場の方々との会を設けていない。</p>	<p>運営推進会議の必要性や重要性は認識しているが、定期的な開催には至っていない。事業所内で話し合いケアの向上に勤めている。</p>	<p>定期的な開催に向けて、会議参加者の人選を含め努力を期待したい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>分からないことはそのまま放置せず連絡を取っている。また、物事によって長寿介護課・保護課・地域包括支援センター等と分けて連携を取っている。</p>	<p>保護課や長寿介護課とはこちらから出向き相談したり、意見をいただいている。事業者からの意向を真剣に伝え、意見の交換もしている。包括支援センターとは、日常的に連携をとっている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束防止マニュアルを掲示している。職員間では同じ話でも再確認する為に何度も話している。</p>	<p>管理者も職員も身体拘束はあり得ないものと考えている。ベッドの配置や言葉かけによる拘束にも配慮している。身体拘束のリスクを職員全体で共有している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員との信頼できる関係づくりを心掛け、何でも話し合える環境をつくることにより 見落としが無いようしている。又、気になる時には指導をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前活動した実績があり、状況に応じて必要な時には支援出来る状態にしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は時間を掛けて説明し、疑問や不安がある場合には後日でも請け付けるうお話している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や手紙・ファックスなどのやり取りをしており、意見や要望を頂いている。また要望に沿えるように支援している。口頭で要望が言えるような関係でいられるように努めている。	家族の方からは自由に意見を言ってもらえる雰囲気を作られている。遠方の家族の方からは、電話やファックスで意見をいただいている。面会時に家族の悩みなども聞き、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日話し合う時間はあり、また必要なときにも機会を必ず設けている。良い支援が出来るよう、職員の意見や提案を言いやすいような関係づくりに努めている。	職員と管理者は日常から意見を言い合える関係できている。管理者は、職員の要望などを受け入れることが利用者への良いケアにつながるのと考えを持っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりの性格を把握しており、気になる時には個別に話をしている。給与については、年数・能力に応じ変動している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内々の勉強会は開いているが、外での研修は言っていない。スキルアップのため資格取得に向けた意欲を持たせ、試験に行きやすいような勤務変動は快くしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわき地区グループホーム協議会の会員になっているが、交流の場に行くことが減ってしまった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前の調査情報の共有しスタッフにイメージを持たせることにより利用者様への対応に混乱しないようにする。環境に慣れていただくよう声掛けや会話の時間を作るよう心掛けている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の話に耳を傾け不安や要望を聞いている。入所初期には特に色々な報告をし、安心していただけるよう心掛けている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前調査、本人・家族の意見を基に支援方法を決めるが、入所後の状態をみて方針を変えたりと柔軟性のある支援に努めている。又、その際の家族との連携にも気を配る。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>洗濯や調理、日常で必要な物の準備を共に行っている。また、職員の子供たちが来所した際には面倒を逆にかけていただいている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者様の状態に合わせての面会や電話での会話等のやり取りで、行動として家族にしてあげられることが少なくても、体を思いやる言葉を発したりと絆を感じさせられる。何より元気な顔を家族に見せることが喜ばれるし、家族の支えだと感じさせられる。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入所前の打ち合わせ時に、「出来るだけ馴染みの環境をつくりたい」理由を伝え、馴染みのものを持ってきていただいている。かかりつけ医がある場合には、希望をきき、対応できるようにしている。以前近所だったお友達の訪問や電話でのやり取りがある。</p>	<p>近くの方が特別の用事がなくても、面会にきていただける雰囲気が出てきている。散歩の途中、利用者の要望があり入居前に働いていた職場に向くなど、馴染みの関係を維持できるよう支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>共有テーブルをいくつか設置し気の合う利用者様同士で交流している。また、孤立しないよう皆で交流がもてるようレクリエーションを行っている。また、間に入り利用者様同士が上手く交流がもてるように支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後でも、来所されご家族様の話をされたり、今の縁だけの付き合いではなく「お願いすることがある時にはよろしく」と言われるような関係でいる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活全般の意思決定は共同生活のため難しいが、会話や行動等で 個々の意思や希望を聞き取るよう努めている。</p>	<p>今まで自分から話さなかった人が、職員の根気強い声かけにより、心を開いてたずさわった仕事のことなどを、話してくれるようになった。思いを把握するための、あきらめない努力が実っている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>事前調査にて、本人・ご家族様・他介護サービス事業との情報を得て当事業所での生活に生かしていこうと努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>協力動作を考えた着脱や状態に合わせた掃除やレクリエーション、レクリエーションや清拭時等の会話を通しての心身状態の把握に努めている。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者を主とし個々に合わせた計画になっている。</p>	<p>家族や職員全体で本人の状態を把握して、計画を作成している。食欲や体調・受診の結果をふまえ、状態の変化に応じて随時見直し変更している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の記録により情報の共有そして、気づき・疑問の話し合いから決定・改善と反映出来るよう努めている。職員のみならず管理職も輪に入り一緒に考え結果を出す。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>状況に合わせた支援が出来るよう職員同士の連携が取れており、変更があった時には申し送りにての情報共有に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>身体状態が年々低下し、困難になってきている方もいるが、可能な方には今後場面づくりをしたい。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前、かかりつけ医に継続して受診するか、それとも協力医療機関へ変更するか希望をきき、応えられるようにしている。</p>	<p>入居時に医療機関の選択をしていただいている。協力医療機関への受診は、職員が同行している。受診結果は、家族と連絡を取り共有している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護資格を持つ職員へ疑問点等は相談したり、受診時に看護師さんから意見を頂戴している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には何度も足を運び、より良い治療が受けられるよう情報提供している。また、入院中 医師や看護師さんからの情報提供の時間をつくり退院後の生活に役立てている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>話し合いが必要な利用者様には、ご家族・事業所・医師と連携し話し合っている。問題なく何件もの実績も出している。</p>	<p>入居時に重度化や終末期について、本人・家族と話し合いをし、意向を確認している。状態に変化があった時は、家族・医療機関と連携をとり、十分な対応をするようにしている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>イメージ出来るよう書面にして職員ひとり一人に渡している。また、スムーズに連絡が取れるよう書面にしてある。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災用品・備蓄を揃えている。訓練も実施している。</p>	<p>災害時を想定したイメージトレーニングをし、避難訓練を行っている。地震の時は、スムーズな誘導で、安全な避難をすることができた。消防署の提案で、夜間想定訓練も計画している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様・高齢者でなく 同一人の人間として 自分がされたくないことはしない。人生の先輩として尊厳は忘れない対応に心掛けている。	声かけやことばに気をつけて、一人ひとりを尊重した対応を心がけている。援助をするということではなく、プライバシーを尊重しながら、家族のような支え合う関係を築こうとしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日着替える衣服の決定や時々ではあるが、おかずのリクエストを聞いたりしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望・体調や状況に応じ食事の場所や時間を変えている。また、日中の過ごす場所も要望に沿った席や、状態に合わせた居場所を作っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の意思決定が出来るよう声掛けしている。また、移動美容室に来ていただき好みの髪型にして頂いている。その日の気分で髪型を変えたり女性は髪飾りをつけたり帽子をかぶりしている。男性は髭剃りの支援をし、身だしなみを自分で気にして自分から髭剃りを要求するような関係づくりをしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を頂くことが多いので、下処理を一緒に行ったり、調理が困難な方には食材の調理方法を聞いたりしている。また、好みに合わせた提供・状態に合わせた形態にしている。	いただいた季節の新鮮な食材をメニューに取り入れている。職員は利用者の出来ることを見極め、出来る範囲内で、見守りながら一緒に食事の準備をしている。食事は家庭的な雰囲気の中で、楽しくいただいている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ食事形態や量の変動をしている。水分も提供時以外にも 身体状況に合わせて提供している。(例えば、下痢が続いている時には脱水をおこさないよう多めに等)		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・一部介助・全介助と個々に合わせた支援をし、出来ないことのみ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人で歩くのが困難で自ら行くことが出来ないだけでトイレに行けない方にシルバーカーを準備したり、様子観察し個々に合わせた声掛け・誘導を行っている。	排泄チェック表に頼りきらず、利用者のサインや表情からくみ取り、さりげないトイレ誘導をしている。入院中ははおむつになっていた人が、退院後は自立排泄が出来るようになった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事療法する為 食材の工夫をして、毎日の牛乳提供、水分量の調整をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望だけでは「入りたくない」という方が出してしまうので、固定で入浴する日を決めているが、状況によっては時間をとわず入浴していることもある。	入浴を嫌がる人には、声かけを工夫し、自然に入浴できるよう支援している。職員は二人ひと組で、安心・安全に入浴できるように取り組んでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、レクリエーションを行い活動していただいたり、職員と会話やコミュニケーションをとり昼・夜とメリハリをつけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬指示書を見れる状態にあり、また、薬の変更や注意点がある時には申し送り伝達やノートに記載し全員に回るようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせた役割で、掃除や調理準備、備品の準備をしていただいている。また、やって頂いたことへの感謝の言葉は忘れないようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様からの活動的な言葉が得られないが、戸外に出て外気や外の環境に触れることが出来るように努めている。 近隣・公園など	地域の商店街のお祭りや行事に参加している。季節感を感じてもらえるよう、近くの公園や買い物に出かけたりしている。職員のから、外出する機会を多くするよう提案があり、計画している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>以前は対応可能な方には管理していただいていたが、現入所者様で管理可能な方はいない。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>かかってきた家族からの電話で会話をし互いの状況を確認しあっている。</p>			
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>照明の明るさを柔らかくしたり、室温計を置き室温も気にしている。また、日によって不快を感じた時には調整している。また、24時間換気で空気清浄にも気を付けている。</p>	<p>中学生の福祉体験研修のお礼の作品が掲示されている。利用者と職員と一緒に作った季節を感じられる飾り付けがある。畳のスペースにこたつがあり、ゆったりとくつろげるよう配慮している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有スペースには3つのテーブルを置き、気分や身体状況に合わせて休息を取っていただいている。また、廊下には椅子を置き疲れたときや座りたいときなどに休んでいただいている。</p>			
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所前に自宅に居た時に少しでも近づけるように馴染みのものを持ってきていただくよう目的を伝え、なるべく持参していただいている。</p>	<p>馴染みのものを自由に持ち込んで、安心できる居心地の良い居室づくりをしている。畳の部屋とフローリングの部屋があり、本人の要望を聞いて部屋替えを受け入れている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりつたいではなかなか思うように行きたいときに行きたい場所にいけない方のためにシルバーカーを用意し自分の意思で移動できるような工夫をしている。</p>			